

■斎藤一 **謎多き剣客。新撰組隊士となり、戊辰戦争で官軍と、維新後は警視庁に属し西郷軍と戦ったラストサムライ。**
さいとう はじめ
天保改革終・1844＝ 明石藩の足軽だったが、浪人となり、江戸に出て旗本に仕え、株を買って御家人になった山口右助の次男に生まれる。母はます。元日に誕生したらしく、一(はじめ)と名付けられる。姉に勝(ひさ)、兄は廣明。

阿部正弘首座1845＝ 1歳：

ペリー来航・1853＝ 9歳：

出自の身分は低いものの幕臣になった者の子としての気概をもつように育ち、父の出身地播磨国の、おそらく無外流のもとになった山口一刀流の**剣術**を身につけ、**近藤勇**の天然理心流**試衛館**に出入り、士族のほとんどは形式的に学ぶだけで**実戦の経験**もなくなっているなか、

桜田門外変・1860＝16歳：

生麦事件・・1862**＝18歳：**江戸小石川関口で旗本と口論になって斬ってしまい、以降、剣の腕を自覚、剣によって社会の矛盾を乗り越えるようとする信念を抱くようになる。追捕を逃れるべく、斎藤一と改名し、
8月18日政変 1863＝19歳：***父から紹介された京都の吉田道場の師範代となって身を隠す。期せずして、芹沢鴨・近藤勇らが上洛、壬生の八木家を拠点に壬生浪士組を結成したのに参加、17名全員が京都守護職だった会津藩主松平容保の預かりとなり、京都の市中警護を任せられ、**
禁門の変・・1864＝20歳：**その働きが評価されて、容保から新選組の名を与えられると、その副長助勤に抜擢され、池田屋事件では、土方歳三隊に属し、事件後、幕府と会津藩から恩賞を与えられ、長州征討に向け再編成された新選組行軍録には四番隊長として登場、人を殺すに適した関係者を使っていたらしく、沖田総司、永倉新八と並び新選組最強の剣士の一人といわれ、ともに撃剣師範も務めている。**

大政奉還・・1867＝23歳：**近藤勇から信頼され、伊東甲子太郎が新選組を離脱して御陵衛士を結成した際には、間者として入隊、金に困って逃げたように見せかけるため、御陵衛士の活動資金を盗んで逃げ、山口二郎(次郎)と改名して、新選組に復帰、伊東が近藤の暗殺を企てていると報告し、新選組が先手を打って伊東ら御陵衛士を暗殺する(油小路事件)。紀州藩の依頼を受けて、同藩士三浦休太郎を警護し、海援隊・陸援隊の隊員16人に襲撃されるが(天満屋事件)。鎖帷子を着ていて無事、三浦は顔面を負傷したものの命に別状は無かった。**

明治維新・・1868＝24歳：***新選組は、鳥羽・伏見の戦いで始まった戊辰戦争で幕府軍に属するが、次々敗北し江戸に撤退、隊長近藤勇が新政府軍に投降して処刑され、窮地になった新選組の隊長を任せられ、負傷して戦列を離れた土方を遺し、かつて恩義を受けた松平容保の会津藩に赴き、やがて合流した隊員一同、その指揮下に入る。帰趨を制した白河口の戦い、母成峠の戦いに参加、一度は勝利するも、作戦を受け容れられず、稻荷山の戦いで奮闘空しく敗戦、若松城下に退却中、土方と合流、その後、土方らは庄内へ向かい、大鳥ら幕軍の部隊は仙台に転戦するが、会津に残留し、'コゴデ志ヲ捨テサルノハ誠義ニアラズ'と、会津藩士とともに城外で新政府軍への抵抗、会津藩が降伏したあとも戦い続けるが、最後の戦いで壊滅、その後、藩家老佐川官兵衛のもとに参じ、その警護をしながら戦を続けていたが、ついに会津落城、容保が派遣した使者の説得によって投降、以後、新選組時代のことを生涯語らない。捕虜となった会津藩士とともに、最初は旧会津藩領の塩川、のち越後高田で謹慎生活を送る。会津藩は降伏後易名され、会津松平家は家名断絶となったが、**
戊辰戦争終・1869＝25歳：**再興を許され、新たに開かれた斗南藩士となって、下北半島へ赴き、藤田五郎と改名(何度も改名してきたが、すべて数字が入っている)。以後、残された藩士とともに苛酷な生活を送るが、**

廃藩置県・・1871**＝27歳：**
明治6年政変 1873＝29歳：
佐賀の乱・・1874＝30歳：**この年警視庁を創設した川路利良が諜報活動を行う人材を求めていることと関連してか、東京に移住、蟄居中の元会津藩主松平容保、佐川官兵衛ら重鎮の仲人で、元会津藩大目付高木小十郎の娘で、籠城戦での城内の様子を語り遺した時尾と再婚(時尾との間には、長男勉、次男剛、三男龍雄を儲けることになる)、警視庁採用後、江藤新平が佐賀の乱を起こした際、川路の命により探索に向かっている。**

西南戦争・・1877＝33歳：**西郷隆盛率いる旧薩摩士族反乱が起こる(西南戦争)と、内務省警視局で警部補に昇任し、小隊半隊長として参加、旧会津藩の名誉回復のチャンスとしたい佐川官兵衛ら旧藩士らも率いて、斬り込みの際に敵弾で負傷するも、敵の大砲二門を奪う活躍を見せて奮戦し、東京日日新聞に報道されて、世間に再登場。**
琉球処分・・1879＝35歳：**政府から勲七等青色桐葉章と賞金100円を授与された。**

・・・・・1880**＝36歳：**
明治14年政変1881＝37歳：警視局が廃止されると、一旦、陸軍省御用掛となり、警視庁の再設置により巡査部長となる。
新体詩抄・・1882＝38歳：向ヶ岡弥生社における撃剣大会で富山円と引き分ける。
内閣発足・・1885＝41歳：警部補、
初の対等条約1888＝44歳：麻布警察署詰外勤警部となる。警視庁の剣術家名簿に藤田五郎(斎藤)の名前と、級位は「四級」とあり、
帝国憲法発布1889**＝45歳：**
帝国議会始・1890＝46歳：警視庁構内における春季撃剣大会で渡辺豊に勝っている。
大本教・・・1892＝48歳：**退職。東京高等師範学校校長高嶺秀夫(元会津藩士)らの推挙で、同校附属東京教育博物館(湯島聖堂)の看守(守衛長)に奉職。同校の撃剣師範をて務め学生に撃剣を教えるが、その剣技は衰えることなく、誰ひとりその竹刀に触れることさえできなかったという。**

日清戦争始・1894＝50歳：
八幡製鉄始・1897＝53歳：**のちに発見された、この年の家族写真から、生前よく知る者の'ふさふさとした眉、目つき鋭く、炯々とした背の高い男'との評が感じられる。**

子規句歌革新1898**＝54歳：**
Bushidou・・1899＝55歳：退職。東京女子高等師範学校庶務掛兼会計掛になり、生徒の登下校時は人力車の交通整理もしたという。
日露戦争終・1905＝61歳：
韓国反日暴動1907**＝63歳：**

伊藤博文暗殺1909＝65歳：退職。山川浩や高嶺秀夫とは親交が続いたように、**その後も、会津に心を置いて生涯を送りながら、晩年も、住んでいた本郷真砂町にあった神道無念流有信館の剣士を怖れさせるほどの腕を示し、子供たちにも剣術や武士の心得を教えていたと言われ、伝説的な存在になり、**

21ヶ条要求・1915＝71歳：**胃潰瘍のため東京府東京市本郷区真砂町で没した。**
まさに、使命をもって職務に忠実であるとともに、現実に対応する優れた生き方であった。床の間で結跏趺坐をして往生を遂げたと伝えられ、遺言に従い、戊辰戦争で亡くなった多くの会津藩士が埋葬されている会津の阿弥陀寺に葬られた。遺品として近藤勇から贈られた「白蔵主の根付」が、次男剛の婿養子先である浅羽家に伝わっている。維新後賊軍扱いされてきた新選組の実像を明らかにして名誉回復に寄与した子母澤寛の「新選組物語」の中で、斎藤一の左利き説を採用して以来、司馬遼太郎の小説「燃えよ剣」、浅田次郎の小説「壬生義士伝」「一刀斎夢録」テレビドラマ「新選組血風録」などで踏襲されるも、出自、経歴など不明なことが多く、他の新選組の剣客と比べるとかなり少なかったが、中村彰彦の「明治無頼伝」、和月伸宏のコミック「るろうに剣心－明治剣客浪漫譚－」で重要人物として描かれ人気上昇、2015年には、吉川永青が「闇魂 斎藤一」と主役に小説を描くに至った。警官藤田五郎としては、山田風太郎の「警視庁草紙」およびそのテレビドラマ化「山田風太郎 からくり事件帖-警視庁草紙より-」、メディアミックス作品「明治東京恋伽」、今野敏の小説「サーベル警視庁」シリーズの主要登場人物となっている。

Wikipedia「斎藤一」をベースに、NHK番組「英雄たちの選択」シリーズの「ラストサムライ 謎多き新選組隊士 斎藤一」で追捕、